

我子の比較觀察

幼稚園の入園の最初の日、今まで我子ひとりしか知らなかつたお母さんが、世の中にはいろいろの子さもあることを知つて、目を丸くしたり、鼻を折られたりして、びっくりするお母さまが珍らしくありません。うちの子は随分よく発育してゐると思つてゐたら、なんといふい體格の子が、澤山ゐるのだろう。うちの子にそつかりしてゐると思つてゐたら、なんといふい性質の子が、澤山ゐるのだろう。その他何々々と、感心させられて仕舞ふことがあるのです。但し、さういふ中でも、やつぱり、うちの子が天下一品だと、得々とされてゐる幸方もありますが、折角くの幼稚園へ出して、我子の自慢だけでも、あんまり單純過ぎた話でせう。

そこで、幼稚園入園一ヶ月ともなれば、人の子の中に我子を置いて見た時の、比較觀察といふものが、正しく出来なければなりません。優劣をきめるばかりに比較したのでは、つまりません。況して、うちの子がよその子より劣つているのを見えて、くやしくてならん。更に進んでは、その優れてゐる子が、にくらしくてならんなどいふのは、誠に以てつまらないこと此上ありません。

人のなり見て我がなり直せといふことは、自分といふものだけでは、自分といふものが分らない。よその人と比較して、自分の短所を氣がつくといふ意味ですが、我子といふものに就ても、同様に比較研究によつて、その特色が、よきにつけ悪しきつけ、はつきりせられるのです。そして、よその子のいゝ處に感心しては我子の足らないことを思ひ、なるほど、あゝもなれるものかと、教育の方向も心づいて来る譯です。幼稚園に出してから、我子がどういふ子かといふことが、はじめて分つたといふお母さんは、それだけでも、幼稚園を大いに利用されたと

いふ譯になります。小さい時から見なれてゐる我子の性質は、分つたやうで分らないものです。それをつまり、人中で、見なすことが出来るのです。

それから又、たゞに比較といふばかりでなく、家庭で膝の上に置いてのみ見てゐた我子が、いろいろの子さの中でいろいろの姿をあらはすを見て、我子には、あゝいふところがあつたのかと、今にして更めて驚くこともあります。なんといふ我子のものだらうと恐縮せられたり、なんといふ意氣地なしだらうと恥しくなつたりするのです。専門的な児童觀察法としても、子どもは子どもの群の中でないと眞の姿を見られないといふのが、近來の學説ですが、それを、最も生き生きした場面で見せて呉れるのが幼稚園です。

お母さん方、お子さんが幼稚園になれば、あーもなれるものかと、教育の方向を見て、うちの子を比較研究して下さい。